

O.Z RACING

レーシングとストリートの
クロスポイント。

O.Z Racing (オーゼット・レーシング) の魅力は、レーシングとアフターとの距離が近いこと。究極的なコンペティションの場で鍛えられ、磨いた技術や精神を、ダイレクトにアフターホイールへと落とし込む。アバルト 500 シリーズには、そんな彼らの思想が濃密に宿る。すべてのアバルトライフに最適解を見出すため、彼らは理想像を追求する。

問い合わせ=オーゼットジャパン
<https://www.oz-japan.com>

文=中三川大地
text=Daichi Nakamigawa



「勝つために必要なホイールなら OZ(オーゼット) レーシングだ」という言葉は、いつの時代もマイスターの常套句として囁かれる。いわゆるアバルト勢に用意されるホイールには、そんな彼らの姿勢が如実に浮かびあがる。なにしろヨーロッパ数カ国で開催されたワンメイクレース車両であるアセットコルサ・トロフェオへ純正採用されている。500、695 などモデルが進化を続けていく最中でも、一貫してその足もとを支えたのはオーゼット・レーシング製スコルピオーネだった。可愛い顔つきに 1 トン弱の軽量ボディだからといって、ホイールに妥協はできない。グリップ力の高いスリックタイヤで縁石を厭わず踏み抜いて限界に挑むレースであり、ホイールにかかる負担は尋常なものではない。さらに他者との接触を日常茶飯事というアグレッシブなレース展開で無事にゴールを迎えるためには、多少の衝撃があってもビクともしないホイールが必要不可欠だ。ドライバーを納得させる剛性感も大前提である。500 と 695 ではそれぞれ

込むことと同義だといえる。

アバルト勢に用意されるホイールには、そんな彼らの姿勢が如実に浮かびあがる。なにしろヨーロッパ数カ国で開催されたワンメイクレース車両であるアセットコルサ・トロフェオへ純正採用されている。500、695 などモデルが進化を続けていく最中でも、一貫してその足もとを支えたのはオーゼット・レーシング製スコルピオーネだった。可愛い顔つきに 1 トン弱の軽量ボディだからといって、ホイールに妥協はできない。グリップ力の高いスリックタイヤで縁石を厭わず踏み抜いて限界に挑むレースであり、ホイールにかかる負担は尋常なものではない。さらに他者との接触を日常茶飯事というアグレッシブなレース展開で無事にゴールを迎えるためには、多少の衝撃があってもビクともしないホイールが必要不可欠だ。ドライバーを納得させる剛性感も大前提である。500 と 695 ではそれぞれ

専用設計（サイズ）で、使い回しはできないという。見た目はほぼ変わらずとも、出力性能に合わせて理想像を突き詰めるのがいかにもオーゼット・レーシングらしい。

そして、スコルピオーネをアフターホイールへと落とし込んだのがレジェンダである。表層だけを真似した類ではないことは、先に触れたオーゼット・レーシングの開発体制が物語る。7.0J × 17 インチというサイズで、アバルト 500 シリーズを完璧に支える。

スタイリングは実にシンプルだ。凝ったスポーツクデザインを取り入れているわけではない。しかし、だからこそ普遍的なたくましさを感じ、飽きることもない。質実剛健を体現するホイールであり、そのファニーな姿カタチを引き締めるレジェンダをみると、イタリアンコーディネートの粋が感じられる。

レーシングカー（ラリーカー）との距離が近いのは名作ラリーレーシングもまた然り。

イタリア生まれ、モータースポーツ育ち

1971 年にシルヴァーノ・オゼッラドーレとピエトロ・ゼンが MINI クーパー用ラリーホイールを作ったところからオーゼットは始まった。78 年には正式に「OZ S.p.A」に。84 年には「O.Z Racing」を発足させて F1 にホイール供給を開始した。2024 年時点では 220 名（イタリアは 184 名）ものスタッフが働き、世界 70 力国に製品を供給する国際企業となった。パドヴァの本社は R&D 部門、製造工場などを含めたオールインワンの施設であり、オーゼット・レーシングの製品群はすべてここで開発、生産されている。



アバルトの足もとに欠かせないブランド

アセットコルサ・トロフェオや 500 ラリー R3T、124 ラリーといった競技車両のほか、市販モデルの多くにもオーゼット製ホイールが純正採用される。たとえば 695 ピポストにはウルトラ・レッジェーラが起用された。「日曜日はサークットへ、月曜日はオフィスへ」というピポストのコンセプトは、オーゼット・レーシングの趣旨とも合致する。ホイールにはしっかりと「O.Z Racing」のロゴが刻まれて黒子に徹していないところは、アバルト自身もオーゼット・レーシングに敬意を払っていることがわかる。



Coming Soon!! RR40

特に WRC では 1990 年においてカルロス・サンチアゴのワールドチャンピオンを支えたセリカ GT-FOUR が有名だ。装着されたラリーレーシングは、グラベルを走ってもブレーキが砂利を噛みにくくデザインと、タイヤが外れてホイールだけになってしまって戻ってこられるほど強さを持っていた。FIA のトップカテゴリーにおいて、20 年以上も基本的なデザインが変更されなかつたことが性能の高さを裏付ける。さらにウルトラ・レッジェーラ、スーパーツーリズモなどオーゼットの代表的な銘柄にもアバルト用が用意される。

こうしたオーゼット・レーシングのものづくりはアバルト自身も納得しているのだろう。先に触れたアセットコルサ・トロフェオのほか、グループ R 規定に基づいて開発された 500 ラリー R3T、124 ラリー、そしてロードカーである 695 ピポストなどにもオーゼット・レーシングが純正採用されている。

自動車メーカーに納入する純正部品サプライヤー（OES）として活動するためには、短期

的で記した通りアバルト勢には定番となったラリーレーシングの誕生から 40 周年を記念し、その進化版が間もなく登場する。その名も RR40（アールアールフォーティ）だ。ラリーレーシングの特徴であるディッシュデザインと、内に秘めたレーシングスピリットを継承しながら、ディッシュ面の肉抜きを含めてより現代的にブラッシュアップ。温故知新ならぬ温故創新といえるスポーツホイールだ。デリバリーは 2026 年春を予定しており、現在予約受付中。サイズはアバルトを想定した 7.5J × 17 インチ (+35 4h × 98) となる。



ハイパチタニウム



レースホワイト

的な性能達成のみならず、長期的な信頼耐久性や品質の安定性、長期的な部品供給など厳しいハードルが立ちはだかる。そうした意味ではオーゼット・レーシング側も自動車メーカーの厳しい要求に応えることで、日々、鍛